

平成30年度 第2回能美市総合教育会議 議事録

I 日 時 平成31年2月12日(火)

開会 午前10時00分 閉会 午後0時02分

II 場 所 能美市役所 1階 大会議室

III 出席者

【構成員】

市 長	井出 敏朗
教育長	谷口 徹
教育長職務代理	南 俊博
教育委員	亀田 美穂
教育委員	畑中 美千代
教育委員	秋山 珠緒

【事務局】

総務部長、総務課長、総務課課長補佐

【教育委員会管理局】

管理局長、教育委員会管理局次長兼教育総務課長、学校教育課長、
スポーツ振興課長、生涯学習課長

【司会進行】

総務課長

【傍聴人】

2名

IV 内容

- 1 開会
- 2 市長挨拶

(市長)

おはようございます。大変ご多用のところ、教育会議に出席を頂きま

したことに、御礼を申し上げ、そして、日頃、能美市の教育力の向上にもご尽力をいただいている事に御礼を申し上げたいと思います。

今、能美市の人口というのは、ついこの間まで増加していますというお話をしていましたが、実は1月には、前月と比べて減少となっております。最近では、外国の方がたくさん能美市内に転入をしていらっしゃった事で能美市全体の人口が増えていたのですが、ここにきて日本人、外国人共に、減少となり、1月と比べて数値が減少に転じたという事があります。

今、新年度予算の編成に日々取り組んでいます。やはり、この移住・定住を促進させるという事を一丁目一番地に挙げて、新年度予算の編成を行っていきたいという思いであります。そして、この、移住・定住を促進させるという事の中に、4つのポイントがあるという事を、常々申し上げます。1つ目は、子育て、住環境を充実させるという事。2つ目は雇用の場を確保するという事。3つ目は安心安全な暮らしができるという事。そして、4つ目が教育力の向上、教育力が高いという事だと思っております。

そして、この教育力が高いという事に関しても、色々な観点がございますが、最も大事な事は、子ども達に、毎日明るく元気に学校に通ってもらうという事だと思っております。最近テレビのニュースを見ますと、千葉県野田市の事件が連日のように報道されています。この報道を見ても、やはり能美市の子ども達に毎日明るく元気に学校に通ってもらうという事が大事であり、それこそが正に、教育力を向上させる礎だと思っております。本日は、今年度第2回目の総合教育会議であり、色々な議題がございます。もう一度申し上げますが、何よりも子ども達に明るく元気に毎日学校に通ってもらう為にどうしていくのかという事に関して、ご意見を頂ければ幸いです。限られた時間ではございますが、よろしくお願い申し上げます。

3 教育長挨拶

(教育長)

おはようございます。平成31年度をもって、日本全国すべての自治体で、教育長を代表とする教育委員会制度に変わる為の移行期間は終わりますが、この制度の目玉というのは、教育行政と一般行政が調和をしていくことだと思っています。前々回のこの総合教育会議で、ご挨拶の時にその話をさせていただいたかと思えます。独立行政として教育委員会があったわけですが、やはり、市の一般行政としっかりと結びついた形で、今ほど市長のご挨拶にもございましたとおり、しっかりとした施策を実施していくという事が大切かと思っています。平成31年度の教育行政では、キーワードは「きめ細やかで切れ目がない事」だと思っています。子ども達が明るく元気に学校に通ってくれる。そういった教育行政がきちんと能美市では行われていると言われるように、是非この場で市長と胸襟を開いて、課題にしっかりと向き合いながら、どうそれを克服していくかというお話をしたいと思っております。本日はどうぞ、よろしく申し上げます。

4 協議事項

(1) 市内小中学校の現状について

(事務局)

市内小中学校の現状について、学校教育課長が報告。

(秋山委員)

授業改善でのまとめ振り返り活動についてですが、先程の説明で、普段の授業でも最後の振り返りを先生はよく行われているという事でしたが、子ども達の様子を見ていると、1年程期間を遡った内容の振り返りまで、とても丁寧にされている事が分かります。このような取り組みの積み重ねが、学力の向上に結び付いていると、私は日々感じております。

また、不登校についてですが、カウンセラーの先生方を交えて、学校の方々が丁寧に見てくださっていると、毎月の委員会でとてもよく伝わってきます。ですが、残念なことに月を追うごとに、不登校の数は増え

ているようです。そのため、現在、学校に通えている、元気だと思われている生徒に対しても、不登校にならないような指導をしていただけたらなと思います。この現状を目の当たりにして、明日、我が子が学校へ行けなくなったらという危機感をすごく感じるのですが、全ての保護者がそういう意識を日々持ちながら、子どもの様子を家でも見ていただければ、少しは現状を変えられないかなと考えています。そこで、少し考えたのですが、入学説明会で、保護者の皆様に、この現状をすべてお伝えすることは難しくても、何かしら、心に響くような事を養護の先生や校長先生からお伝え願えないかなと思いました。

(学校教育課長)

ありがとうございます。学力向上については、今までに勉強した事と、今日勉強したことを重ね合わせるという事はすごく、子どもにとっての大きな学力に繋がっていくと思います。

そして、秋山委員がそういう場面を見て、そういう風を感じられたという事は非常にありがたいことだと思います。子ども達はそういう点で力をつけていると感じています。

また、今、通学できている子がこの先不登校にならないよう指導して行って欲しいという点について、やはり学校としても、子ども達が楽しんで通うことができる学校を目指していくことが大切だと思っております。学校の中で一番時間を取るものは授業なので、やはり、「分かる授業」を目指していくという事が、今後大切になってくると思っております。ありがとうございます。

(亀田委員)

先ほど事務局から説明がありました「学力について」です。校内で課題を挙げ、対策を立てて、実行されていらっしゃるという事ですが、これからはますますそれを重要視して、進めてほしいと思っております。

しかし、その前提として、教員が肉体的、精神的な余裕があるかとい

うところが、心配です。今日も、たくさん資料もいただきましたが、書類作りや色々な学校管理、規則などに縛られていらっしゃるのではないかと心配しています。子ども達に向き合う前に、教員自身が授業を楽しんでおられるかという事が大切かと思えます。今、教員の働く時間が問題にされていますが、教員が働く環境というのが整備されて初めて、子ども達の学力の向上に繋がるのではないかと思えます。

そして次に、「不登校について」です。ソーシャルワーカー、スクールカウンセラーという方たちとは、どういう方がどんなふうに連携されているのか知りたいです。また、専門のカウンセラー、ソーシャルワーカーは、どのような方になっているのかという事も教えていただきたいです。

そして、不登校の未然防止について挙げられましたが、私は最も基本的なことは教員の魅力、授業の魅力、それから学校の魅力をアップして、楽しい学校づくりに繋げる事ではないかなって思えます。

今、ものすごく不登校が多くなってきているのですが、学校がつまらなければやはり子ども達は学校に行きたがらないのではないかと感じます。ですから、教員の魅力、授業の魅力、学校の魅力アップという事を考えていただきたいなと思えます。

あと一つは、「児童虐待について」です。今、ニュースでも色々聞きますが、先程お聞きした、連携の中に小児科医の先生が入っていらっしゃるのか、もう一度説明していただきたいなと思えます。お願いします。

(学校教育課長)

まず、学力向上についてですが、教員の働き方という点においては、先生方は授業することはすごく楽しんでます。どうしたら、子ども達が分かってくれるのだろう、どういうような授業を作っていこうということを考えるあまり、時間をかけすぎてしまい、時間外勤務が多くなっている状況が見られます。そこについては、時間外勤務時間というものをはっきりと自分たち、もしくは学校で認識しまして、勤務時間内で出

来る授業、教材研究、授業づくりを目指していくという事が大切になります。ただ単に、時間外勤務時間を減らすという事ではなく、質を落とさず、時間を短くしていくというような意識改革が必要ではないかと思っています。

2点目のスクールソーシャルワーカー、カウンセラーについてですが、スクールソーシャルワーカーは、各学校を回って色々な情報を得たり、健康福祉部との会に出たり、そして色々なところから情報を得てそれを各学校に流したりというようなことをしています。また、カウンセラーは、現在能美市では小学校6校、そして中学校全てにいらっしゃいます。しっかりとした資格を持っていらっしゃる方もいますし、専門的な研修をして、スクールカウンセラーになっているという方もいらっしゃいます。週に何回か学校に入り、特に中学校では、毎週行われている生徒理解の会に出て、そこで不登校になっている子ども達の情報を交換する際の、良いアドバイザーとして、中心になって活動されています。

そして、魅力ある授業、魅力ある教員、魅力ある学校については本当、その通りだと思います。授業については先程お答えしましたが、教員については、人間力というものも必要となります。子ども達と一番たくさん関わっているのが教員だと思うので、その人間力という部分を大切にしていきたいと思います。また、学校について、先程授業のことをお話しさせていただきましたけども、色々な行事、部活動、そういった点においても、魅力ある、子ども達にとって楽しいと思える学校づくりは必要だと思います。

虐待に関してですが、先程出ました、発達支援センター連絡会及び児童虐待進行管理の方には、小児科医の先生は入っていません。児童相談所の方もいらっしゃるのですが、もっと虐待が進んだ時、もしくは子どもに何か、痣とか、そういったものが見られた時には小児科医の方にかかるという事もあるかと思うのですが、詳しいことについては申し訳ありませんが、把握しておりません。

(亀田委員)

ありがとうございました。児童虐待のことになるのですが、痣など、何かが発見されてからというよりも、未然防止という点から、日常の健康管理の面で専門家が審議会で、普段のチェックでどういう所に注意したらいいかという点についてご発言等を頂けたら良いと思います。大変な時になってからではなくて、普段の学校の様子、それから定期的な健康診断からでもいいですので、いつも見守るという視点で、小児科医の先生に入っただけであれば、審議会もより深くなり、安心した学校づくりが出来るのではないかと思います。

それから、学校の先生が子ども達の事を考え、何とか楽しい学校にしたいと願ってらっしゃるということがよく分かります。子ども達が友達同士のやり取りでのちょっとしたすれ違い等が原因で悩んでいるとか、そういう時にすぐ、相談室にわざわざ行かなくても、担任の先生にその場ですぐ相談に乗ってくれば、そこですぐ解決できることもあると思います。そういう時、先生が子ども達に信頼されていないといけないと思います。単に授業だけして、子ども達の輪に入らず、信頼されていない先生では子ども達からの意見も聞こえてこないと思います。そういう先生との関わりというものがあれば、不登校の未然防止に繋がっていきますので、色々な所で先生の子ども達との信頼関係を作っていただきたいなって思います。色々、ありがとうございます。

(学校教育課長)

ありがとうございます。ご指摘の通りで、生徒と教員であっても人と人なので、そこはしっかりと関係を作れるように、普段の関わりが大切かと思います。生徒から見ても、担任の先生、部活の先生、そして同じ学年の先生と様々な先生と関わる機会があります。合う、合わないもあるかもしれませんが、そんな中で、自分の思いを話せる先生を作れるような環境にしていきたいなと思います。

(教育長)

少し、よろしいでしょうか。ここにデータがあるのですが、先程、亀田委員から、教員として余裕をもって授業に向き合っているかというお話がございました。今、県の働き方改革の関係で、毎月の報告が市教委に届くのですが、時間外勤務が80時間を超えた先生というのが、小学校は、12月は0人でした。そして、1月は2人。中学校は、12月は20人。そして、1月は同じく20人でした。これが、先程の余裕とどう結びつくのかは、まだ分析はしていませんが、例えば中学校で言うと、最大時は4月、5月、9月、10月に60人程いた、時間外勤務が80時間を超えた先生が20人になっている。それから、小学校は40人、50人いた先生がこのようになっているという事でもありますので、余裕をもって授業に臨まない子どもも増えてこないという事が意識化されてきているという受け取り方もできるかと思っています。今、学校教育課長からありましたような取り組みを更に強化しながら、先生方に、余裕をもって教育活動にあたっていけるように、教育委員会としては指導していきたいという風に思っています。以上でございます。

(2) 能美市スポーツ推進計画の策定に向けて（案）

（事務局）

能美市スポーツ推進計画の策定に向けて(案)についてスポーツ振興課長、担当者から説明。

（南職務代理）

先程、中学校の不登校の説明の中でも、不安や無気力が原因という、そういうのがありましたが、1つの原因はやはり体力がないという事であるのではないかなと感じています。では、一番効果的な事方法を考えますと、スポーツでの体力づくりの前に、体の基本を作らなければ、スポーツをするという所まで達せません。それはどのくらいの年齢でやるのが良いか考えると、大体5歳くらいまでという感覚を私は持っています。そうすると、幼稚園の段階から必要なのではないかと思います。前

にバディという、すごく特異な幼稚園で、長距離を入園初日から毎日走っているという園の話もありましたが、そんな極端な事でもいいかというのは、別の問題としましても、小さい頃から体を作るという事を心がけていけば、その後成長していった後運動機能も上がっていくのではないかと感じます。そこで体力に自信がつけば、マイナスに考えるような児童や生徒も減るのではないかと考えられるのですが、いかがでしょうか。

(スポーツ振興課長)

南委員のご質問についてですが、根上でのジュニアスポーツクラブは小学生以上が対象になりますが、5歳までという幼少期の頃に体を動かすことが非常に大事な事かと思えます。この件につきましては、根上の総合文化会館で毎週土曜に、民間のスポーツクラブで小さい子がたくさん活動しております。これは、各地区でも行われております。民間のクラブも一生懸命やっておりますので、そういったところも増えていけばいいかなと感じております。

また、ジュニアの方ですが、市長の冒頭のご挨拶や、みなさんのお話しにもありました通り、元気で明るく学校に通う為にスポーツをする事、スポーツを楽しむという事は非常に大事かなと思えます。特にこのジュニア関係につきましては、現在は昔のような指導一環ではなく、スポーツを継続して楽しんでやるという事が非常に重要になっているかと思えます。

(亀田委員)

「スポーツ現況についての各種団体の相関図」からなのですが、医師会の参画というものはあるのでしょうか。やはり、健康で明るい体力作りをみんながやるにあたって、安心してスポーツが出来るようにという点から、色々な意見が聞きたいと思えますので、医師会も中に入っていたら、安心して、皆さんが取り組みできるのではないかなと思えました。

もう一つ、先程の、ジュニアスポーツクラブなのですが、民間から公

的なものまで、色々できていることで、能美市にスポーツが根付いていてよいと思います。しかし、その中でやはり監督の絶対服従的な指導や体罰というようなものも関して、外部の場であってもチェック機能があったらいいかなと思います。その為に、監督、コーチの選任方法というものも大事じゃないかと思ひますし、指導理論などの勉強もして欲しいなと思ひました。

(スポーツ振興課長)

亀田さんのご質問は2つございました。まず、審議会に医師会が入っていないかという事でしたが、現在のところ、医師会というものはございません。ただ、今年度から健康推進課等と連携を図っております。また今後、審議会等を立ち上げた中で、また検討させていただけたらなと思ひます。

2つ目としましてはジュニアの体罰チェック機能という事でございます。正直、ジュニアのスポーツクラブ、各スポーツクラブ、44ありますが、指導の内容について、全ての把握はしておりません。なり手がないう事も非常に大きな問題としてあり、各クラブの監督さんが非常に長く務められている事が多いです。長くなると、やはり惰性或慣れなどで、怠慢になる事もあり得ますし、その中でそういった事も出てくるかもしれません。その辺につきましては、年に1、2回行われている、ジュニアスポーツの全体の会で勉強会等を開いております。

その点も審議会、また、計画を立てるうえで、中身を検討させていただけたらなと思ひます。

(畑中委員)

スポーツ推進計画というのは本当に今から必要だと思ひます。効率よく進んでいくためには、こういう計画をして、実行していくという事は必要だと思ひのですが、最近福祉などでもそうなのですが、市主導では

なく、地域や町が自分たちで自分たちを守るという傾向になっています。それをスポーツでも生かすとしたら、例えば、地域や町の人たちの交流にスポーツを生かした事をやっていただき、それが、一人一人の健康に繋がっていくような仕組みを、作ってもらえたらいいと感じました。スポーツをやる人が、自分がやらなければ進んでいけないという状態より、皆が体を動かしていけるような、仕掛けを作れないかと思いました。推進計画の概要の4番目にありました、「市民が気軽に楽しめる地域スポーツの充実」という部分に私の願いとするものが入っていれば、ありがたいなと思います。

(スポーツ振興課長)

スポーツ推進計画の中の、地域の交流について、必要になってくるという畑中委員のご意見は、おっしゃる通りでございます。ジュニアのスポーツクラブに限定させていただきますと、それぞれの地域でスポーツクラブが出来ていまして、そこの保護者の方、特にお母様方が、子どもがクラブに入ることによって、グループのようなものが出来て、そこで、地域の交流が、小さいながらもできているという現状もでございます。で、全体的な仕組みという事も今後、委員の皆様の意見をお聞きしまして、検討していきたいと思っております。

(南職務代理)

学校教育とはあまり関係ないのですが、昨日新聞にスポーツマイレージ事業というものが出てきました。スマホを使い、何歩歩いたか計測するアプリケーションを作って、それを使うとポイントが貰えるという事業が始まっているそうです。生涯教育という事で考えますと、これは全国的な問題なのですが、男子がなかなか参加してくれないというものがあります。能美市にものみ活クラブなどあり、そこで、筋肉作りなど色々な指導もされているのですが、なかなかそういう事が出来ていません。しかし、天気がいい時に歩いている人はいます。だから、このようなも

のもうまく活用して、高齢者が一人で家にこもるような事にならないようにしていけるといいと思います。また、私の同級生が2年ほど前に亡くなっているのですが、原因は歩きすぎ、走りすぎということらしいです。それで体調崩してしまって亡くなってしまいました。このウォーキングの事業についてですが、そこの指導はしているようで、8千歩ほど歩くのを続けることが一番いいという事で、情報はちゃんと出しているのですが、特に男子は頑張りすぎてしまう傾向があります。高齢者の場合はそういう事も考慮して、この全体計画の中に、プラスすれば、効果があるかもしれないなと思っています。ただ、問題は、スマホを持っている高齢者がいない、いたとしてもアプリを入れるのが大変ということです。いろんな問題が出てきますけど、これを一つの、歩き出す人を増やすきっかけにできるかもしれないという気がしたので、役立ちそうであったら活用していただきたいと思います。

(亀田委員)

南さんのおっしゃられたことに関連するのですが、スポーツ推進審議会について、先程の事務局からの説明では、近年は機能しておらず形骸化しているという事なのですが、やはり機能させるには、やる気などの面もありますが、健康管理というだけでは議題が漠然としているので、支障が起きるのではないかと思います。そして、参加者が安心安全で楽しいスポーツが出来るようにという事から、役職の8番の学識経験者というのが漠然としていて、分からないのですが、スポーツを合理的に推進するために、専門のスポーツドクターそれから、整形外科医それからまたは理学療法関係者、そういう方が中に入っていらっしゃったら、より深く審議が出来るのではないかと思います。そうすれば、そこからまた色んなことが発信できるのではないかと、思いますので、そういう方たちにも入っていただきたいなと思いました。

(秋山委員)

推進計画案についてなんですが、スポーツというのは、様々なニーズが

色々な世代に求められる分野だなと常日頃思っています。これから、パブリックコメント、アンケートをやっていくと思うのですが、そういう事を大切にしながら、誰もがスポーツ活動を気軽にできるような場所や、健診の後に、健康を推進しているそういう機関とも連携して、具体的で分かりやすいような、スポーツライフに繋げていただけたらなと思います。

5番の「総スポーツ社会を目指す」というフレーズがとてもインパクトがあって、いいなと個人的に思いました。

(スポーツ振興課長)

皆様のご意見いただいたことを盛り込みながら、検討させていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

(3) 新博物館建設工事の進捗状況と今後の利活用について

(事務局)

新博物館建設工事の進捗状況と今後の利活用について、生涯学習課長、担当者が説明。

(畑中委員)

事務局の、意気込みがすごくここまで伝わってまいりました。本当に、色々夢のある計画ですので楽しみにしております。計画通りに行くよう、色々な努力を惜しまないでやっていただきたいと思います。

1つだけ、博物館の中のギャラリーについてお話しします。ギャラリーの展示はすごく市民が楽しみにしていたものですから、そこを有効に活用できるような配慮を頂けたらいいなと思います。博物館の周りだけじゃなくて、鍋谷の蟹淵など、能美市内全域に範囲を広げて、市民に発信する場所が博物館だと、とてもうれしいと思います。がんばってください。

(生涯学習課長)

ありがとうございます。このギャラリーですけども、市民ギャラリーとして今まで、辰口の方でありましたが、新博物館でも、十分に市民の方に使っていただきたいなという風に思っております。ありがとうございます。

(畑中委員)

無料でしょうか。どうお考えですか。

(生涯学習課長)

使用料につきましては、この後また、建設準備委員会の方でまた、専門家の方の意見を聞きながら、検討していきたいなと思っています。

(南職務代理)

前から、地元にある色々な文化を上手く児童に教えるという事が出来ないかと思っていまして、コミュニティ・スクールが上手く使えないかと思いました。コミュニティ・スクールの発展の為にも題材が必要だとちょうど考えておりました、こういう昔の、色々な展示物、例えば、千歯扱きなど、簡単な原理のものを使って昔はやっていたというのを理解させるときに、地域の人々の教育力も使うことができないかと思いました。昔の人たちはシンプルな材料を使って非常に不便な状態でやってきて、それを環境に合わせて発展させ、色々な形で出来た文化の集合がこれだと思います。小さい頃に、そういった仕組み等を教えてもらった思い出から新しい発見や知が生まれる事もあるかもしれないので、今までにあるものをもっと小学生の低学年でも理解できるような形にして、小学校の教育と連携できないかなと思います。そこで教えるのに、地域の人を使うということができるともって、従来の学習指導要領の教育以外に色々な知が子ども達に入っていくのではないかと思います。昔の3町合併したことで、能美市には色々な特徴のある文化がありますので、そういう事を汲んで、新しい知を作るための材料にするというような活用をしてもらったらいいのではないかと、そういう何か核のようなものがあると面白かもしれないなと思いました。

(生涯学習課 担当者)

ありがとうございます。民具1つとっても、能美市の海から山まで本当に色んな道具の違いがあって、その道具の使い方を子ども達に知ってもらうとなると、実際に使っていない学芸員では限界があるので、実際にここで、生まれ、暮らして、使っていた人が解説をしてくれたり、一緒に使ったりしてくださるのはとてもありがたいです。そういった人たちも活躍できるよう、一つ連携取りながら進めていける展示にしていきたいと思います。ありがとうございました。

(秋山委員)

新博物館待ち遠しいです。開館に向けての取り組みについてですけど、今回のプロジェクトではありませんが、何年前に市内の蛍の観察会や川の生き物さがし、勾玉づくりに参加したことがあります。市内の自然に触れた経験というのは、子ども達が大きくなった今でも、よく覚えていると話してくれます。そんな実体験が、この博物館に行くと、また、蘇り、繰り返し思い出される。そういう素晴らしいプロジェクトだと思われれます。

また、逆に、博物館で知った場所や自然に足を運んでみたいと思うプロジェクトにまで繋がって行って欲しいなという思いがあります。

あと、もう一点、利活用についてなんですが、現在市内の小学校で社会科の歴史や、総合の授業で郷土のふるさと学習をしているように思うのですが、子ども達はとても詳しく、また、子ども達の視点というのはとても新鮮です。同じ市内でも、特産品など全く違ってきておりますし、同学年の子ども達が、ここを拠点として、学んだことをお互いに共有し合える場所にしていただくと、広く能美市内のことを学んでいける場となるのではないかと思います。また子どもたちの素晴らしさを幅広い世代の人たちに知っていただけたらと思いますので、今後の活用をまた検討していただけたらなと思います。

3 閉会挨拶

最後に井出市長が閉会の挨拶を行った。

(市長)

2時間にわたりまして、慎重審議、そして深掘したご意見を、ご提言を頂きまして、ありがとうございます。今日は3項目の議題に関してミーティングを行いました。

まず、1点目の市内小中学校の現状についてという事に関しまして、私が冒頭で言った、「子ども達に毎日明るく元気で学校に通ってもらう」という事のためには、先生方の働き方改革、先生方ご自身が、元気で明るく学校に行ってもらおうという事が大変重要であるというご意見を頂きました。

私も、学校の現場、それから先生方がどんなことをお考えになっていらっしゃるかという事を直接知りたいという思いの中で、校長先生や教頭先生と色々な話し合いをする場を設けておりますし、参観授業にも参加をさせていただいて、直接授業を拝見させていただきながら、現場を知って教育委員会と連携をして、教育力の向上に努めていきたいという思いであります。

2点目の、スポーツに関してなんですが、スポーツというのは大きく分けて3つあると言われております。参加する、見る、それから支えるという、3つがあります。この参加するという事に関しましても、いわゆる健康増進、競技力の向上、余暇、それから、地域力を高めるという事があります。それに関して皆様方から色々なご意見を頂戴しました。もう一つが、見る、応援するという事。これは、プロスポーツをイメージしていただければ分かりやすいですが、ファンとかサポーターとか、そういうことです。また、支えるというのは、これは、道具や広告です。スポーツには経済効果を生むという側面がございます。今、他の市町がこのスポーツ推進計画をどのような形式で、また、どんな分野に広げて作っているのかという事を、もう少し勉強を重ねてですね、この能美市ならではの計画を策定していきたいとそんな思いであります。

3点目の博物館の件でございますけれども、皆様聞いていただいても、職員が、頑張っているなという事を実感として感じていただけたのではな

いかなと思います。しかし、触れなかった部分の課題もございます。例えば委員の方からもご指摘ありました、いわゆる入場料をどうするかという点がございます。いただくべきか、いただかないべきか。もし、いただくとすれば市民からだけにするのか、あるいは、市外の方だけにするのか。それから、いただくとすればいくらがいいのかという事もございます。そこはしっかりと、勉強していかななくてはならないなと思います。それから、博物館の名称をどうするか、能美市博物館じゃなかなかなじまないのではないかという思いもあり、その名称をどうするのかという問題もあります。それから、プロジェクトの中でも、触れていただきましたが、博物館が出来る場所の周辺施設というのが、防災センター、すば一く寺井、さらいと言いましたが、能美警察署やリサイクルセンター、ふるさと歴史の広場もあります。この周辺一帯をどうやって活用していくかというような事。それから、能美市内に国指定の5つの古墳があってその整備が進んでいるのですが、そこを訪ねると、あまり人が来ていないというのが実態でございます。まさにこの新しくできる博物館を市全体の古墳を巡る拠点にしていきたいというような思いもあります。その期待を、どんどん彼らにぶつけているものですから、日々悩んでいるのではないかなと思いつつも、それを生きがいに感じて、今日もこうやってプレゼンをしてくれたのではないかなとも思っております。色々な話をもうしあげましたけれども、我々と教育委員会、それから、教育委員の皆様と一体となって先ほど申し上げた通り、何よりも、この時代を担う子ども達が毎日明るく元気に学校に通えるように努めていきたいと思っておりますので今後ご指導ご鞭撻を賜りますことを、よろしくお願い申し上げまして挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

6 閉会

午後0時02分終了